

宛先：株式会社シーテック 代表取締役社長 仰木一郎 様

|  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 住 所<br><small>(法人その他の団体にあつては主たる事務所の所在地)</small>  | 〒438-0035<br>静岡県袋井市砂本町 3-12         |
| 氏 名<br><small>(法人その他の団体にあつてはその名称、代表者の氏名)</small> | 日本野鳥の会遠江<br>代表 増田 裕                 |
| 住 所<br><small>(法人その他の団体にあつては主たる事務所の所在地)</small>  | 〒141-0031<br>東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル |
| 氏 名<br><small>(法人その他の団体にあつてはその名称、代表者の氏名)</small> | 公益財団法人日本野鳥の会<br>理事長 遠藤 孝一           |
| 意見書の提出の対象である<br>準備書の名称                           | (仮称) ウインドパーク遠州東部風力発電事業 環境影響評価準備書    |

### (仮称) ウインドパーク遠州東部風力発電事業 に係る環境影響評価準備書に対する意見書

[環境の保全の見地からの意見]

貴社が作成した(仮称)ウインドパーク遠州東部風力発電事業に係る環境影響評価準備書に対して、下記の通り意見を述べる。

#### 【主旨】

以下の理由により、本事業の縮小または中止を含めた、抜本的な影響回避策を講じることを求める

#### 【全体について】

(仮称)ウインドパーク遠州東部風力発電事業における環境影響評価準備書(以下、準備書という)に掲載されている対象事業実施区域(以下、計画地という)では、以前より希少猛禽類のクマタカ(環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB類)の生息・繁殖が確認されている。また、サンバ(環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類)の秋季の主要な渡りの経路となっている(武田 1989)。そのため、貴社が当該事業を実施することで、これらの鳥類がバードストライクや生息地放棄、障壁影響等の影響を受けることは確実である。

準備書に記載されている通り、貴社の調査でも計画地およびその周囲において、クマタカについては少なくとも8ペア以上が繁殖・生息していることが確認されている。また、サンバ等の渡りについては秋季の渡りが令和3年の調査でも観察されたことが、貴社の準備書から読み取れる。

しかしながら、この結果をもって貴社が直ちに『環境影響評価準備書【要約書(縦覧版)】環境影響評価結果の概要(8)』の中の「3. 予測評価の結果」において『環境保全措置を講じることにより重要な種及び生息地に関する影響は、現時点において小さいものと考えられることから、実行可能な範囲内で回避、低減が図られているものと評価します。』と評価した結果については、次に示した理由により、貴社が適切な予測・評価を行ったとは言い難い。

クマタカにおいて「猛禽類保護の進め方(改訂版)一特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて」(平成24年12月環境省)に準拠して行動圏、高利用域、営巣中心域をそれぞれのペアについて解析し、その結果をもって予測評価をすべきところ、本準備書においては全

く言及されていない（又は公表していない）。準備書の調査では「猛禽類保護の進め方（改訂版）」の52頁『予備調査・調査計画の策定』の段階であると思われる。したがって、本準備書はこの1点を見ても、適切に鳥類への影響を予測および評価できているとは言えない。

また、鳥の渡りについて“年間予測衝突数”のみの数値で評価して、移動経路の遮断・阻害の影響は小さいと予測しているが、貴社も言及している通り不確実性を伴っているため、適切な保全措置につながらない。

鳥類調査の方法についても以下【個別の項目について】に示すように、内容の不備があるので、準備書へその旨を追加記載するか“準備書の再提出”を行うべきと考える。

以上のことから、本事業を進めるにあたって、貴社に対しては、当該事業がこれらの希少鳥類の生息に影響を全く与えないよう、事業の縮小または中止を含めた、抜本的な影響回避策を講じることを求める。

今後、影響の回避および鳥類の生息環境保全について検討を進めるのであれば、環境影響評価の精度をより向上させるためにも、下記の「個別の項目について」に記載した内容を参考にして、調査方法を再検討および変更をし、開発日程にこだわらず再調査すべきである。

### 【個別の項目について】

特にこの地域では重要種となる希少猛禽類のクマタカ、渡り鳥のサシバの調査内容について、下記1～3で言及する問題点が明らかになった。

#### 1. クマタカ(希少猛禽類)の現地調査における調査地点について (10. 1. 6-14(1403)～(1410))

(仮称) ウインドパーク東部遠州風力発電事業における環境影響評価方法書に対する意見書(令和2年7月10日付)において、「クマタカの生態を考慮して7水系(家山川・切山川・大代川・原野谷川・太田川・白光川・福用川)ごとの生息確認が必要」と指摘したが、2022年の定点調査は、予備調査完了段階で、8ペアの生息が確認されただけで水系ごとの生息数の詳細は不明である。

現段階では、確定した調査地点での観察は、必要な調査期間である2年間を満たしていない。2020年を予備調査ととらえて、2021年の結果に加え、2022年も継続調査が必要である。この調査の中で、営巣場所、行動圏(主に高利用域)などを解析し、影響を予測、評価すべきである。

#### 2. サシバの秋季渡り時の移動経路調査について (10. 1. 4-106(857)～(861))

主な渡り鳥のサシバに関して、準備書857ページに「対象事業実施領域およびその周囲における鳥類の渡り時の移動経路を把握するため、当該地域での観察を行った」とあるが、表10. 1. 4-22の実績表を精査し、下記のことがわかった。

サシバの渡りは長年の民間の研究者による報告では、主な通過日は9月15日～10月10日ころに集中しており、通過する個体数は日々ばらつきが顕著である。一日の中でも夜明け頃に八高山の東斜面より飛び立つ個体があり、日没時刻にも埒入りの個体があるので、調査時間を午前6時頃～午後5時までにする必要がある。また、設定された観測地点で、東から通過するサシバを観察できるのはWt2とWt5地点で、これ以外はサシバの渡りを観察するには不適當である。以上のことにより、サシバの通過個体数は実際の観察個体数より減り、観察時間は延び、結果として年間予測衝突数は小さな値となる。つまり実際の年間予測衝突個体数は今回の結果よりかなり大きくなると考えられる。以上の内容は、調査結果の解析に大きな影響を及ぼすものであり、上記の課題を織り込み、再調査・再解析が必要である。

#### 3. 保全措置の要否について(要望)

以下の条件を満たすように保全措置の内容を検討していただきたい。

1. 希少猛禽類クマタカについては、各ペアの高利用域内に風車の設置が無いようにする。
2. 希少猛禽類クマタカの2年間の調査結果により算出した年間予測衝突個体数から設定した数値を上回るメッシュには風車の設置はしない。
3. 渡り鳥のサシバについては、【個別の項目について】の(項目2)によって再算出した年間予測衝突個体数から、限度設定した数値を上回るメッシュには風車の設置をしない。

以上

**【引用文献】**

武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. Strix 8: 35-123.